

市町村におけるがん検診の状況について

1 課題

- ・がん検診受診率、精密検査受診率の向上
- ・新型コロナウイルス感染症の予防対策を図りながらの集団がん検診の実施

2 市町村における受診促進の主な取組み

＜令和3年度＞

- ・集団がん検診の Web 予約実施
- ・がん検診受診券を集団検診と施設検診の両方で使える受診券を新規で作成し、対象者に送付
- ・休日検診や早朝・夜間検診の実施
- ・総合検診の実施
- ・協会けんぽ特定健診とがん検診の同日実施
- ・健康センター窓口にて1年を通して大腸がん検診を実施
- ・大腸がん検診・喀痰検査、検体早朝回収の実施
- ・すべての集団検診において託児の実施
- ・40～60歳代の働き盛りや退職後間もない人への受診勧奨（未受診者への電話勧奨等）
- ・無料クーポン券や20～39歳の子宮頸がん検診自己負担額の軽減
- ・商工団体を通じた職域への受診勧奨 など

＜令和4年度＞

令和3年度に実施している取組みに加えて、

- ・集団がん検診の Web 予約実施[再掲]（4ヶ所追加）
- ・レディース検診の実施
- ・子宮がん検診の実施期間の延長（集団検診の受入制限を考慮）
- ・集団がん検診において、個別通知と電話による受診勧奨を実施
- ・小学生とその保護者を対象とした親子がん教室を実施（コロナ禍のため、保護者には子どもから受診勧奨のリーフレット等を渡す） など

○ 参考（市町村のがん検診受診率（概数））

令和3年度の市町村のがん検診の受診率については、令和5年度に厚生労働省から公表予定の「地域保健・健康増進事業報告」に基づき県健康課で算出する予定であるが、県内でのがん検診における新型コロナウイルス感染症の影響を把握するための参考として、県内市町村に概数調査を行った結果は下の表のとおりであった。

	胃がん	肺がん	大腸がん	子宮頸がん	乳がん
R1年度	18.9%	32.2%	26.4%	27.1%	28.7%
R2年度	12.1%	25.8%	23.7%	24.2%※3	25.7%※3
R3年度（概数）	13.9%	28.0%	25.5%	23.9%	24.8%
R3/R2比	114.7	108.4	107.9	98.9	96.5
R3/R1比	73.3	86.9	96.7	88.3	86.3

- ※1 令和元年度及び令和2年度の受診率は、厚生労働省「地域保健・健康増進事業報告」より、県健康課で独自に作成。
 ※2 令和3年度の受診率は、市町村から厚生労働省に「地域保健・健康増進事業報告」として提出された数値に基づき、県健康課で独自に作成。
 ※3 子宮頸がん及び乳がん検診は受診間隔が2年に1回であるため、受診率の算出に当たり、前年度と当年度の受診者数を使用することから、令和2年度の受診率には、コロナ禍の影響を受けていない令和元年度の受診者数の影響が出ていることを考慮する必要がある。